

世代別血縁関係に関する一考察*

— 大工場従業員における研究 —

篠崎 信 男
萩野 嶋 子

目 次

- 1 ま え が き
- 2 本調査事項の先祖の範囲
- 3 妻の年齢別に見た先祖の職業状況
- 4 世代別に見た血縁関係
- 5 妻の年齢別、先祖よりの職業別に見た現夫婦の血縁関係
- 6 妻の年齢別、先祖の職業別に見た血縁濃度関係
- 7 妻の年齢別、夫妻の血縁関係別先祖の血縁関係の状況
- 8 年齢別に見た先祖の血縁濃度関係
- 9 先祖の夫々の夫婦の夫の職業別に見た血縁濃度の状況
- 10 む す び

1 ま え が き

昭和34年12月に人口問題研究所は「労働力の人口学的基礎構造に関する調査」を行なったが、その調査の一環として、大工場の従業員の職業及び家族歴実態調査を行ない、家族計画の普及状況及び効果状況を分析研究したのである。これについては既に結果表が示されているが、その際、かねてより人口資質についての参考資料を得るために調査事項の中に夫妻それぞれの先祖についての血縁状況と職業を入れ、縦の関係をも併せて調査した。本稿は、これに基づき特に川崎地区居住の従業員について集計した結果の概略報告である。

但し斯る調査事項は本人の記憶に依存するものであるため、完全記入票が極めて少なく従ってこれを以って全般を推すわけには行かないが、今日、労働力の質が問題となり、また人口資質向上が叫ばれている時、その本人の血縁関係の状況特に世代別に見たその実状については見るべきものが皆無と行ってよい。

斯ることより一つの参考資料、乃至は一指針にもなるかということと急いで取りまとめたものであるが、計8,034調査対象中、利用し得る調査票は3,844で47.8%であった。しかも職業をも完全記入なものを取ればこの数は大巾に下回るため、とにかく父系、母系何れかにおいて可能な限り利用出来ればこれを取ることとし、たとえば祖父母が血縁関係が不明でも父母において明らかになればこれを取り、その逆も、これを取るということにおいて集計総数を3,844に維持したのである。しかし、こ

* この研究における計算、製表などについては本研究所人口資質部資質科員米田昭子技官の援助に負うところ大であった。

れら任意的な票によって得られたその結果が、一応年齢別の分布状態において昭和35年の国勢調査における年齢分布と如何程の偏差があるかを見ておくことは必要である。第1表によってその年齢構成のズレを見ると次の如くである。

第1表 本調査票の妻の年齢55歳未満のもの分布状況と昭和35年センサスによる有配偶女子人口の年齢別分布状況との比較

年 齢 階 級	昭和35年国勢調査 の有配偶女子人口 の年齢構成 (I)	本調査における妻 の年齢55歳未満の 年齢構成 (II)	誤 差 率 $\left(\frac{II}{I} - 100\right)$ (III)	$(III)^2 \times 10^8$ (IV)	相 対 偏 差 $\frac{III}{\sigma}$ (V)
15 ~ 19	0.35%	0.37%	5.71	326041	0.37
20 ~ 24	8.00	9.14	14.25	2030625	0.93
25 ~ 29	19.41	28.83	48.53	23551609	3.16
30 ~ 34	19.67	25.68	30.55	9333025	1.99
35 ~ 39	17.17	18.32	6.70	448900	0.44
40 ~ 44	13.74	11.66	- 15.14	2292196	- 0.99
45 ~ 49	12.07	4.80	- 60.23	36276529	- 3.92
50 ~ 54	9.59	1.20	- 87.49	76545001	- 5.70
計	100.00	100.00	—	150803926	—

$$\sigma = \frac{\sqrt{15083921}}{8} = 15.35\%$$

40歳を境として若年齢層に本調査対象は多く取り過ぎ、高年齢層に少ない。しかし本調査対象が大企業体の従業員の妻であるため斯る結果は当然といえるわけで、男子においてさえ定年制で55歳以上のものは会社を止めなければならないのであるから、その妻が45歳以上のものは実数として少ないことが言える。従って本調査の年齢分布状況から見て各年齢間の比較、年齢別の検討には+で0.37%~3.16%の偏差を考慮しなければならないし、-の方では、0.99%~5.70%の偏差を覚悟してものを言わねばならないことになるが、全体としての分布状況のズレは昭和35年センサスによる有配偶女子人口に比し、15.35%であることは上下限において3分の1内外の巾であり、予想外に小さなものであることは幸いであった。しかし本検討は年齢別分布状況のみのものである以上、職業別とか、社会階級別とかについては何等の根拠を始めから持っていない。従って以下取扱う事項も、大企業体従業員の先祖の組合せ状況についての一事例資料に止るだけであることを断っておく。

2 本調査事項の先祖の範囲

集計結果表を述べるに先立ち、如何なる範囲で先祖の事情を調査したかの概略を記す必要があろう。本調査事項は先ず対象夫妻の血縁関係を「いとこ」「いとこ半」「はとこ」「はとこ半」「またはとこ」「遠い親戚」「関係なし」について問い、同様の血縁事項について、「夫の父母」、「夫の母方の父母」、「夫の父方の父母」、「妻の父母」、「妻の母方の父母」、「妻の父方の父母」という6組についての血縁関係を調査したものである。これと同時に男性側を中心とした主な職業、つまり一番長期間にわたって従事した職業をも併せ聞くことにした。従って以下述べる集計表も以上の結果をとりまとめたものである。

3 妻の年齢別に見た先祖の職業状況

調査総数 3,844 夫婦の先祖の職業を大別して農林漁業, 非農林漁業, 混合, その他として集計すると第 2 表の如くである。

第 2 表 妻の年齢別, 先祖の職業別状況

対象夫婦の 妻の年齢	先祖が凡て農林 漁業のもの		先祖が凡て農林 漁業以外のもの		先祖が世代によっ て農林漁業と非農 林漁業が混合して いるもの		その他職業不明 のものを含むもの		計	
	夫婦数	%	夫婦数	%	夫婦数	%	夫婦数	%	夫婦数	%
15 ~ 19	2	(14.3)	--	(--)	11	(78.6)	1	(7.1)	14	(100.0)
20 ~ 24	72	(20.7)	14	(4.0)	244	(70.1)	18	(5.2)	348	(100.0)
25 ~ 29	260	(23.7)	35	(3.2)	722	(65.8)	81	(7.3)	1,098	(100.0)
30 ~ 34	264	(27.0)	26	(2.7)	610	(62.4)	78	(7.9)	978	(100.0)
35 ~ 39	218	(31.2)	18	(2.6)	411	(58.9)	51	(7.3)	698	(100.0)
40 ~ 44	167	(37.6)	9	(2.0)	237	(53.4)	31	(7.0)	444	(100.0)
45 ~ 49	76	(41.5)	3	(1.6)	91	(49.7)	13	(7.2)	183	(100.0)
50 ~ 54	13	(28.3)	1	(2.2)	24	(52.1)	8	(17.4)	46	(100.0)
不 明	13	(37.3)	2	(5.7)	15	(42.7)	5	(14.5)	35	(100.0)
計	1,085	(28.2)	108	(2.8)	2,365	(61.5)	286	(7.5)	3,844	(100.0)

注：実数は夫婦組数，（ ）内は計を 100 とした先祖の職業別状況の割合を示す。

これによって見ると妻の年齢別に見て 50 歳以上は少数のためこれを考慮に入れず 49 歳までの先祖の職業の割合を見ると，高年齢に行く程，先祖が凡て農林漁業のものである割合が高まり，これに反して先祖が農林漁業以外のものであった割合は減少し，また先祖の職業が混合している割合も減少しているという傾向が見られる。つまりこれはある意味で世代の推移状況をも示すもので，日本の工業化の発展とともに，第 1 次産業人口からの吸収過程を裏から示している表ともいえる。従って 50 歳以上の夫婦数は第一章でもふれた如く -87.5% もの誤差がある以上，もし多くを取れば，この割合の傾向は同様に続くものと予想され得るであろう。総計すると本調査対象夫婦の先祖は 28.2% が農林漁業に従事していたものばかりで，先祖が非農林漁業のものは僅か 2.8% に止っているということである。過半数の 61.5% の先祖は転々と職を変えた先祖を持っているということになる。

4 世代別に見た血縁関係

次に夫妻の父母，祖父母について血縁関係を第 3 表によって見ると，現在夫婦 3,844 組中の血縁率は 397 組で 10.3% である。この割合は昭和 24 年より昭和 30 年にかけて調査した全国平均血縁率 14.2% より低い，都市部の血縁率 8.3% より高い。また，父母の代の血縁状況は計 7,688 組中，899 組で 11.7% に当り，祖父母の代も割合としては略同じで 15,376 組中，1,743 組，すなわち 11.3% である。従って川崎地区の従業員であるため，純然たる先祖からの都市生活者のみではなく，地方から雇用されたものも混在しているため，郡部地域の血縁率 18.2% より，はるかに低い都市部のものよりはやはり高く示された。更に本表を年齢別に見た血縁率を第 4 表によって見ると，20 歳未満の現在夫婦には血縁関係は見られなかったが，夫等の若夫婦の父母の代では 10.7% に見られ，祖父母の代でも 3.6% に血縁関係が見られている。これらの若夫婦の母親は丁度，35 歳～49 歳までにある年齢に当たるわけで，本表では，12.2%，11.5%，10.4% の血縁率を持った年代である。これらの平均を取ると 11.7% で，これはまさに父母の代総数の割合と同率であるがこれより低目である。20～24 歳で

第3表 世代別にみた血縁関係

(夫婦組数)

対象夫婦の妻の年齢	対 象 夫 婦		父 母 の 代		祖 父 母 の 代	
	調 査 数	血縁関係あるもの	調 査 数	血縁関係あるもの	調 査 数	血縁関係あるもの
15 ~ 19	14	—	28	3	56	2
20 ~ 24	348	32	696	72	1,392	134
25 ~ 29	1,098	99	2,196	246	4,392	501
30 ~ 34	978	103	1,956	221	3,912	448
35 ~ 39	698	85	1,396	150	2,792	291
40 ~ 44	444	51	888	134	1,776	239
45 ~ 49	183	19	366	54	732	86
50 ~ 54	46	3	92	12	184	26
不 明	35	5	70	7	140	16
計	3,844	397	7,688	899	15,376	1,743

第4表 世代別に見た血縁率 (%)

対象夫婦の妻の年齢	対象夫婦	父母の代	祖父母の代
15 ~ 19	—	10.7	3.6
20 ~ 24	9.2	10.3	9.6
25 ~ 29	9.0	11.2	11.4
30 ~ 34	10.5	11.3	11.5
35 ~ 39	12.2	10.7	10.4
40 ~ 44	11.5	15.1	13.5
45 ~ 49	10.4	14.8	11.7
50 ~ 54	6.5	13.0	14.1
不 明	14.3	10.0	11.4
計	10.3	11.7	11.3

は9.2%を示すが、それらの父母では、10.3%、祖父母は9.6%の血縁率を示し、25~29歳では9.0%の血縁率で、これらの父母の代は11.2%、祖父母の代は11.4%と次第に血縁率が高まって行く。次に30~34歳になると、10.5%の血縁率で、その先祖の代では11.3%、11.5%と同様の傾向を示し35~39歳では12.2%の血縁率で対象夫婦中では最も高い割合である。しかし先祖の代では10.7%、10.4%に止まっている。40歳以上になると現在対象の血縁率は10%内外で大差ないが、それらの父母、祖父母になると、かなり古い世代のものが入って来るため、血縁率も最も高い割合を示していることが分る。つまり通婚圏の大小、配偶選択の考え方やその範囲によって血縁率は左右されるが、これと同時に封鎖的な

社会環境や、解放的な社会環境にも条件付けられている。しかしとにかく、祖父母の代から序々にではあるが血族結婚率というものが下降しつつあるということは争われない傾向であり、この意味では家族集团的な結婚観から、個人中心的なものへと移行しつつあることは間違いないようである。だが通婚関係路ということになると問題はあつた。というのは、農村出身者で都会生活をするものが必ずしも都会生活者、または出身地以外のものと自由に結婚するというまではっきりしてはいない。やはり同郷のものを選択する可能性が強いわけである。ある県の調査では同県同志のもの組合せは85%以上に達していたし、本調査でも同じ出身地のものの組合せが多いことから通婚ルートはやはり何%かの血縁関係を起す一つの原因になっていると思われる。

5 妻の年齢別、先祖よりの職業別に見た現夫婦の血縁関係

先祖の職業別に見た現在の夫婦の血縁関係を見ると第5表の如くであるが、第6表に年齢を3区分に要約した割合をも示すこととする。

これによると先祖が凡て農林漁業者であったものの現在夫婦の血縁率は15.7%で、先祖が凡て非

第 5 表 妻の年齢別，先祖の職業別に見た現在夫婦の血縁関係

(夫婦組数)

職業・血縁関係	総 数	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~	不 詳
総 数	3,844	14	348	1,098	978	698	444	183	46	35
血縁関係無	3,373	14	308	986	861	594	378	159	43	30
血縁関係有	397	---	32	99	103	85	51	19	3	5
血縁関係不明	74	---	8	13	14	19	15	5	---	---
農 林 漁 業	1,085	2	72	260	264	218	167	76	13	13
血縁関係無	882	2	56	214	219	172	134	62	13	10
血縁関係有	170	---	11	42	39	36	27	12	---	5
血縁関係不明	33	---	5	4	6	10	6	2	---	---
非農林漁業	108	---	14	35	26	18	9	3	1	2
血縁関係無	101	---	14	34	25	16	7	3	---	2
血縁関係有	7	---	---	1	1	2	2	---	1	---
血縁関係不明	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
混 合	2,365	11	244	722	610	411	237	91	24	15
血縁関係無	2,134	11	223	663	544	364	210	83	22	14
血縁関係有	197	---	19	52	58	40	19	6	2	1
血縁関係不明	34	---	2	7	8	7	8	2	---	---
そ の 他	286	1	18	81	78	51	31	13	3	5
血縁関係無	256	1	15	75	73	42	27	11	3	4
血縁関係有	23	---	2	4	5	7	3	1	---	1
血縁関係不明	7	---	1	2	---	2	1	1	---	---

第 6 表 妻の年齢 3 区分別，先祖の職業別に見た血縁関係の割合 (%)

職業・血縁関係	総 数	15~29	30~39	40~	不 詳
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
血縁関係無	87.8	89.6	86.8	86.2	85.7
血縁関係有	10.3	9.0	11.2	10.8	14.3
血縁関係不明	1.9	1.4	2.0	3.0	---
農 林 漁 業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
血縁関係無	81.3	81.4	81.1	81.7	76.9
血縁関係有	15.7	15.9	15.6	15.2	23.1
血縁関係不明	3.0	2.7	3.3	3.1	---
非農林漁業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
血縁関係無	93.5	98.0	93.2	76.9	100.0
血縁関係有	6.5	2.0	6.8	23.1	---
血縁関係不明	---	---	---	---	---
混 合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
血縁関係無	90.2	91.8	88.9	89.5	93.3
血縁関係有	8.3	7.3	9.6	7.7	6.7
血縁関係不明	1.5	0.9	1.5	2.8	---
そ の 他	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
血縁関係無	89.5	91.0	89.1	88.5	80.0
血縁関係有	8.0	6.0	9.3	7.7	20.0
血縁関係不明	2.5	3.0	1.6	3.8	---

農林漁業であったものの現在夫婦の血縁率 6.5% より，はるかに高く，これらは統計的にも有意性を持っている。また先祖の職業が，農林漁業やその他の職業と変化しているものの現在夫婦の血縁率 8.3% よりも高く，これとも有意の差を示した。すなわち現在は大企業工場の従業員であるが，彼等の祖先が凡て第 1 次産業従事者であるということは，さきに述べた通婚ルートの問題とともにやはり現在夫婦の血縁率を他のものより高めていると見てよい。これに反して先祖が非農林漁業，またはいろいろな職業を持ったものの子供達の結婚は比較的に通婚圏の拡大が必然的になされているように思われる。このことは職業変化が次の世代の結婚観を変化せしめ，従って集団遺伝学的には汎婚による Hardy-Weinberg 法式化を可能ならしめる方向を取らし

めているともいえる。と同時に社会機能の変化とともに、工業化による都市集中、職業の分化等のますます複雑な相互因果関係が、実は単に生産様式や生活様式を変化させるばかりでなく人口資質の変動をも結婚関係を基点として体質遺伝的に変化せしめつつあることが予想されるのである。

6 妻の年齢別、先祖の職業別に見た血縁濃度関係

現在夫婦のうち血縁関係のある者 397 組の血縁濃度を見ると第 7 表の如くで、いとこ組が 161 で 40.6% を占めている。これは昭和 30 年までの一般血縁濃度率 41.6% にほぼ近い割合であり、次が遠い

第 7 表 先祖の職業別現在夫婦の血縁濃度関係

血縁濃度	総数	農林漁業	非農林漁業	混合	その他
実数(夫婦組数)					
総数	397	170	7	197	23
いとこ	161	60	6	82	13
いとこ半	41	20	—	20	1
はとこ半	44	20	—	24	—
はとこ半	12	5	—	6	1
またはとこ	15	6	—	9	—
遠い親戚	124	59	1	56	8
割合(イ)(%)					
総数	100.0	42.8	1.8	49.6	5.8
いとこ	100.0	37.3	3.7	50.9	8.1
いとこ半	100.0	48.7	—	48.7	2.6
はとこ半	100.0	45.5	—	54.5	—
はとこ半	100.0	41.7	—	50.0	8.3
またはとこ	100.0	40.0	—	60.0	—
遠い親戚	100.0	47.6	0.8	45.2	6.4
割合(ロ) ¹⁾ (%)					
総数	10.3	15.7	6.5	8.3	8.0
いとこ	4.2	5.5	5.6	3.5	4.5
いとこ半	1.1	1.9	—	0.8	0.4
はとこ半	1.1	1.9	—	1.0	—
はとこ半	0.3	0.5	—	0.2	0.4
またはとこ	0.4	0.6	—	0.4	—
遠い親戚	3.2	5.4	0.9	2.4	2.8

注：1) 先祖の職業別全夫婦数に対する割合。

従って各職業別に見た割合は、農林漁業者の血縁結婚率は他の職業のものより高いということは争われない事実であろう。しかもこれらの差について統計的に吟味すると、農林漁業と他の職業との割合の差は有意性を持っているし、いとこ結婚率についても農林漁業と混合職業との差は有意的である。

7 妻の年齢別、夫妻の血縁関係別先祖の血縁関係の状況

以上は現在夫婦の血縁関係者のみについての考察であるが、更に夫等の先祖の血縁関係や現在の夫婦に血縁関係がないものの先祖の血縁関係の状況について述べることにする。第 8 表にその実数と割合を示しているが、総数 3,844 夫婦中、先祖に全然血縁関係のなかったものは 2,472 組で、64.3% に当る。従って残りの 35.7% はとにかく先祖で誰かが一回は血縁関係を持っているということになる。この中、夫側の方に血縁関係のあるものが 12.4%、妻側にあるものは 12.2% で、略同率であり、更

親戚組の 124 で 31.2% に当る。これも一般率 34.4% と大差がない。従って、血縁率は今後減少するであろうが、その血縁内容の割合には大巾な変動は見られず、依然として、いとこ結婚が優位を占めているといつてよい。

次にこれらの血縁濃度を先祖の職業別に見て行くと、397 組の血縁関係者の中、農林漁業、非農林漁業の混合組が 49.6% で最も多いが、農林漁業も 42.8% でかなり接近した割合である。これに反して非農林漁業者や、その他のものは極めて少い。血縁濃度別に見ると、いとこ組やはとこ組、はとこ半組、またはとこ等は混合職業を持つ先祖の方に割合が高いが、いとこ半組や遠い親戚関係となると、農林漁業と同率かこれより低い割合を示している。次いで本表を各職業別の総夫婦数に対する割合で見ると((ロ)表参照)農林漁業と混合の比率は逆転する。つまり総数の 10.3% が血縁率であるが、農林漁業者中の血縁率は 15.7% で、混合職業者の血縁率 8.3% より高く、いとこ結婚率も 5.5% で後者の 3.5% より高い。

第 8 表 現在夫婦の妻の年齢ならびに血縁関係別先祖の血縁関係

血 縁 関 係	実 数 (夫婦組数)					割 合 (%)				
	総 数	15~29	30~39	40~	不 詳	総 数	15~29	30~39	40~	不 詳
総 数	3,344	1,460	1,676	673	35	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
先祖に血縁関係 無	2,472	939	1,102	410	21	64.3	64.3	65.8	60.9	60.0
先祖に血縁関係 有	1,372	521	674	263	14	35.7	35.7	34.2	39.1	40.0
夫の側	476	184	205	82	5	12.4	12.6	12.2	12.2	14.3
妻の側	470	183	194	87	6	12.2	12.5	11.6	12.9	17.1
夫妻の双方	426	154	175	94	3	11.1	10.6	10.4	14.0	8.6
I 現在夫妻血縁関係 有	397	131	188	73	5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
先祖に血縁関係 無	209	77	101	29	2	52.6	53.8	53.7	39.7	40.0
先祖に血縁関係 有	183	54	87	44	3	47.4	41.2	46.3	60.3	60.0
夫の側	56	18	25	12	1	14.1	13.7	13.3	16.4	20.0
妻の側	55	17	22	15	1	13.9	13.0	11.7	20.6	20.0
夫妻の双方	77	19	40	17	1	19.4	14.5	21.3	23.3	20.0
II 現在夫妻血縁関係 無	3,373	1,308	1,455	580	30	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
先祖に血縁関係 無	2,214	849	977	369	19	65.6	64.9	67.1	63.6	63.3
先祖に血縁関係 有	1,159	459	478	211	11	34.4	35.1	32.9	36.4	36.7
夫の側	413	164	176	69	4	12.3	12.5	12.1	11.9	13.3
妻の側	408	163	169	71	5	12.1	12.5	11.6	12.3	16.7
夫妻の双方	338	132	133	71	2	10.0	10.1	9.2	12.3	6.7
III 現在夫妻血縁関係 不明	74	21	33	20	—	100.0	100.0	100.0	100.0	—
先祖に血縁関係 無	49	13	24	12	—	66.2	61.9	72.7	60.0	—
先祖に血縁関係 有	25	8	9	8	—	33.8	38.1	27.3	40.0	—
夫の側	7	2	4	1	—	9.45	9.5	12.1	5.0	—
妻の側	7	3	3	1	—	9.45	14.3	9.1	5.0	—
夫妻の双方	11	3	2	6	—	14.9	14.3	6.1	30.0	—

に夫妻両方の先祖にあるものが 11.1% である。ここで現在夫婦の血縁関係者 397 組の先祖と、無関係者 3,373 組の先祖とを比較すると、関係組の先祖は 47.4% がやはり血縁関係を持つに反して無関係組の先祖の血縁関係割合は 34.4% に止っている。しかも前者の中、夫妻両方に関係あるものは 19.4% と、夫側のみの関係率 14.1%、妻側のみの関係率 13.9% より高く示されているに反して、後者では夫側、妻側ともに 12.1%~12.3% で、夫妻両方にある血縁率は 10% で最も低い。この外現在夫婦の血縁関係が不明なものの先祖の状態は割合としては無関係組の血縁率に近いが、夫妻別に見た割合はむしろ血縁関係組の状態に似ている。従って現在夫婦の血縁関係の有無別に見た先祖の血縁関係のあるものの差は統計的に有意差を持ったもので、これの原因として夫妻両方の先祖に血縁関係あるものの差によっていることが考えられる。

また年齢別について、割合としては 15 歳~29 歳、30 歳~39 歳、40 歳以上と三階級に要約して見ると、40 代以上の先祖に血縁関係率が高く、やはり古い年代程血縁率が高くなっていることは争われない。従って古い年代程また夫妻両方の先祖に血縁関係のあるものの割合も高く示されている。以上のことから、第 1 次産業人口の中に占める血縁率は第 2 次産業人口に移動するにつれて、血縁率を減少せしめつつあることと、年代によって次第に血縁率が低くなることは同じ傾向をたどっていることがいえる。やや飛躍して言うて見れば、農耕定着的生活圏では必然的に血縁率を高める作用をし、渉猟放浪的生活圏では血縁率を低める作用をするといえないこともない。特に現在夫婦に血縁関係あるものの先祖の血縁関係率で、40 歳代以上は 60.3% という過半数を占め、しかもこの中、夫妻双方の先祖に血縁関係あるものの割合は 23.3% と最高であるに反し、現在夫婦に血縁関係なく、先祖に血縁

関係なきものは40歳未満のものでは64.9%~67.1%で、しかも、これらの夫妻双方の先祖に血縁関係あったものは10%内外の少なきに止っていることは極めて対照的である。

次に先祖のどの世代に血縁関係があったか、つまり父母の代か、祖父母の代かということであるが、これを第9表によって眺めることとする。3,844夫婦中、先祖に血縁関係のあったものは1,372組で、この中父母の代にあったものが333組で総夫婦数の8.7%に当り、祖父母の代にあったものが591組で、15.4%、父母、祖父母連続して血縁関係のあったものは448組で11.6%に当っている。これを更に現在夫婦の血縁関係有無別に見ると、血縁関係のあるもの397組中、188組は先祖に血縁関係を持ち、この中、父母の代にあるものは48組で、397組の12.1%に当り、祖父母の代にあるものは69組、17.4%、父母、祖父母の代と続いてあるものは71組の17.9%でこれが割合として最も高い。

第9表 現在夫婦の妻の年齢ならびに夫妻の血縁関係有無別、先祖の世代別血縁関係

血 縁 関 係	実 数 (夫婦組数)					割 合 (%)				
	総 数	15~29	30~39	40~	不 詳	総 数	15~29	30~39	40~	不 詳
総 数	3,844	1,460	1,676	673	35	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
先祖に血縁関係 無	2,472	939	1,102	410	21	64.3	64.3	65.8	60.9	60.0
先祖に血縁関係 有	1,372	521	574	263	14	35.7	35.7	34.2	39.1	40.0
父 母	333	132	125	73	3	8.7	9.0	7.4	10.8	8.6
祖父母	591	232	256	96	7	15.4	15.9	15.3	14.3	20.0
父母と祖父母	448	157	193	94	4	11.6	10.8	11.5	14.0	11.4
I 現在夫婦の血縁関係 有	397	131	188	73	5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
先祖に血縁関係 無	209	77	101	29	2	52.6	58.8	53.7	39.7	40.0
先祖に血縁関係 有	188	64	87	44	3	47.4	41.2	46.3	60.3	60.0
父 母	48	15	19	13	1	12.1	11.4	10.1	17.8	20.0
祖父母	69	23	34	11	1	17.4	17.6	18.1	15.1	20.0
父母と祖父母	71	16	34	20	1	17.9	12.2	18.1	27.4	20.0
II 現在夫婦の血縁関係 無	3,373	1,308	1,455	580	30	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
先祖に血縁関係 無	2,214	849	977	369	19	65.6	64.9	67.1	63.6	63.3
先祖に血縁関係 有	1,159	459	478	211	11	34.4	35.1	32.9	36.4	36.7
父 母	281	114	105	60	2	8.3	8.7	7.2	10.3	6.7
祖父母	509	207	216	80	6	15.1	15.8	14.9	13.8	20.0
父母と祖父母	369	138	157	71	3	10.9	10.6	10.8	12.3	10.0
III 現在夫婦の血縁関係不明	74	21	33	20	—	100.0	100.0	100.0	100.0	—
先祖に血縁関係 無	49	13	24	12	—	66.2	61.9	72.7	60.0	—
先祖に血縁関係 有	25	8	9	8	—	33.8	38.1	27.3	40.0	—
父 母	4	3	1	—	—	5.4	14.3	3.0	—	—
祖父母	13	2	6	5	—	17.6	9.5	18.2	25.0	—
父母と祖父母	8	3	2	3	—	10.8	14.3	6.1	15.0	—

これに反して現在夫婦の血縁関係なきもの3,373組で、先祖に血縁関係あったものは1,159組であるが、この中、父母の代にあるものは8.3%に過ぎず、祖父母の代でも15.1%に止っている。父母、祖父母の代と続いてあったものは10.9%で、前者に比して何れの代も割合が低いことは明らかであろう。しかし、何れの夫婦でも、その祖父母の代が血縁率が高く父母の代になって減少しつつあることは前第8表の年齢別の考察と一致するものがある。更にこの世代別に見た割合を妻の年齢3区分別にして見ると、祖父母の代の血縁率は14%~15%内外で大差ないが父母の代になると、40歳以上のものと未満のものとは差が開いており、若い年齢層の父母の代では7.4%~9%強であるが40歳以上の父母の代では10.8%に及び、父母の代、祖父母の代の血縁率の差、及び年齢による父母、祖父母の代夫々の差というものは何れも統計的に有意性を持ったものである。

以上の差は現在夫婦の血縁関係の有無別に見た父母、祖父母の代の割合を見ることによって、この間の消息が益々はっきりしているように思う。たとえば現在血縁関係夫婦の妻の年齢40歳以上のものの父母、祖父母の代と続いてあるものは27.4%に達するが、無関係組のこの割合は12.3%に止っている。また無関係組の祖父母の代の血縁率は高くても15.8%であるが、関係組の祖父母の代の血縁率は少なくとも15.1%あり、同様に父母の代についても無関係組の最高割合は10.3%であるが、関係組では少なくとも10.1%あることがあげられる。ただし、年齢別に祖父母の代の血縁率が、何れも若い年齢のものに多く一見逆現象に見えるが、これは父母の代までは記憶があるが、祖父母の代では記憶がなかつたものが多いことに帰因しているように思われる。何れにしても年齢別に見て父母—祖父母と連続血縁率の高まりは争われない事実である。

8 年齢別に見た先祖の血縁濃度関係

先祖の血縁関係の割合は以上の如くであるが、その血縁関係の濃度を第10表によって見ることにする。血縁関係のある先祖の夫婦数は計2,642組であるが、この中384組が、いとこ婚で14.5%であり、その他いとこ半、はとこ、はとこ半、またはとこ等の血縁組は計9.4%で、大半がこれ以上の親戚組ということになる。この内訳を父母の代に見ると、いとこ組は899組中、248組で27.6%を占め、その他の近親婚の合計も12.9%と高くなっている。祖父母の代になると記憶洩れその他で親戚婚が増加し、いとこ婚と記入されたものは7.8%に過ぎない。我々の考察によれば、少なくとも斯る割合でなく高いものがあることが想像されるのであるが、この点が本調査では若干問題となる点である。従って年齢別に見ると父母の代はかなり年齢的割合に今までの分析と軌を一にする傾向を看取出来るが、祖父母の代では血縁濃度については、はっきりした年齢別傾向は示されなかった。しかし

第10表 現在夫婦の妻の年齢別先祖の血縁濃度関係

血 縁 濃 度	実 数 (夫婦組数)					割 合 (%)			
	総 数	～ 29	30～39	40 ～	不 詳	総 数	～ 29	30～39	40 ～
総 数	2,642	958	1,110	551	23	100.0	100.0	100.0	100.0
いとこ半	384	139	164	75	6	14.5	14.5	14.5	13.6
いとこ	58	20	23	15	—	2.2	2.1	2.0	2.7
はとこ半	38	42	31	15	—	3.3	4.4	2.7	2.7
はとこ	50	18	9	22	1	1.9	1.9	0.8	4.0
はとこ半親戚	52	15	25	12	—	2.0	1.6	2.2	2.2
はとこ親戚	2,010	724	858	412	16	76.1	75.5	77.8	74.8
父 母 の 代	899	321	371	200	7	100.0	100.0	100.0	100.0
いとこ半	248	86	111	48	3	27.6	26.8	29.9	24.0
いとこ	31	6	17	8	—	3.4	1.9	4.6	4.0
はとこ半	44	23	15	6	—	4.9	7.2	4.0	3.0
はとこ	16	6	3	7	—	1.8	1.9	0.8	3.5
はとこ半親戚	25	3	11	11	—	2.8	0.9	3.0	5.5
はとこ親戚	535	197	214	120	4	59.5	61.3	57.7	60.0
祖 父 母 の 代	1,743	637	739	351	16	100.0	100.0	100.0	100.0
いとこ半	136	53	53	27	3	7.8	8.3	7.2	7.7
いとこ	27	14	6	7	—	1.5	2.2	0.8	2.0
はとこ半	44	19	16	9	—	2.5	3.0	2.2	2.6
はとこ	34	12	6	15	1	2.0	1.9	0.8	4.3
はとこ半親戚	27	12	14	1	—	1.5	1.9	1.9	0.3
はとこ親戚	1,475	527	644	292	12	84.7	82.7	87.1	83.1

第11表 世代間の比較 (%)

血縁濃度	現在夫婦	父母の代	祖父母の代
総 数	10.3	11.7	11.3
いとこ	4.2	3.2	0.9
いとこ半	1.1	0.4	0.2
はとこ	1.1	0.6	0.3
はとこ半	0.3	0.2	0.2
またはとこ	0.4	0.3	0.2
遠い親戚	3.2	7.0	9.6

第11表によって世代間の比較を統計的に吟味すると、現在夫婦と親の代との血縁率には有意差があり、特にいとこ婚では、先祖の代と凡て有意性がある。また、遠い親戚、の血縁関係率に到っては世代間凡てに有意性を持った差である。従って濃度婚は多少の増減があっても相対的には減少傾向をたどるのではないかと思われるが問題は漠とした、この問題に連る親戚婚の動向であろう。というのも濃度婚については本人達が知っているが、遠い親戚ということは場合によっては結婚当事者には分からないことがあるかも知れないからである。

9 先祖の夫々の夫婦の夫の職業別にみた血縁濃度の状況

先祖の夫々の職業別に、その血縁濃度関係を見ると第12表の如くである。2,642夫婦の血縁関係者中384組、14.5%がいとこ組で他は2~3%内外である。大半の76.1%は遠い親戚組で占められている。これを職業別の割合で見ると(ロ)表の如く、いとこ結婚は、農林漁業者の中では11.8%、非農

第12表 現在夫婦の妻の年齢別、先祖の職業別血縁濃度関係

血縁濃度	(イ) 実 数 (夫婦組数)				
	総 数	~ 29	30~39	40 ~	不詳
総 数	2,642	958	1,110	551	23
いとこ	384	139	164	75	6
いとこ半	58	20	23	15	---
はとこ	88	42	31	15	---
はとこ半	50	18	9	22	1
またはとこ	52	15	25	12	---
遠い親戚	2,010	724	858	412	16
農 林 漁 業	1,959	711	809	426	13
いとこ	231	81	100	46	4
いとこ半	43	19	15	9	---
はとこ	64	32	21	11	---
はとこ半	34	14	5	15	---
またはとこ	38	13	14	11	---
遠い親戚	1,549	552	654	334	9
非 農 林 漁 業	640	237	281	115	7
いとこ	144	56	109	27	2
いとこ半	14	1	7	6	---
はとこ	24	10	10	4	---
はとこ半	14	4	2	7	1
またはとこ	14	2	11	1	---
遠い親戚	430	164	192	70	4
不 明	43	10	20	10	3
いとこ	9	2	5	2	---
いとこ半	1	---	1	---	---
はとこ	---	---	---	---	---
はとこ半	2	---	2	---	---
またはとこ	---	---	---	---	---
遠い親戚	31	8	12	8	3

林漁業者では22.5%を占め、他の濃度婚の占める割合は略大同小異である。従って遠い親戚婚というのが前者に高く、後者に低く出て来ることになる。年齢別に見ても、この傾向は変わらないが、強いて言えば20歳代では、はとこ婚の占める割合が他に比してやや高く、非農林漁業者の40歳以上では、はとこ半婚の

(ロ) 割 合 (%)

血縁濃度	総 数	~29	30~39	40~
農 林 漁 業	100.0	100.0	100.0	100.0
いとこ	11.8	11.4	12.4	10.8
いとこ半	2.2	2.7	1.9	2.1
はとこ	3.3	4.5	2.6	2.6
はとこ半	1.7	2.0	0.6	3.5
またはとこ	1.9	1.8	1.7	2.6
遠い親戚	79.1	77.6	80.8	78.4
非 農 林 漁 業	100.0	100.0	100.0	100.0
いとこ	22.5	23.6	21.0	23.5
いとこ半	2.2	0.4	2.5	5.2
はとこ	3.8	4.2	3.6	3.5
はとこ半	2.2	1.7	0.7	6.1
またはとこ	2.2	0.8	3.8	0.9
遠い親戚	67.1	69.3	68.4	60.8
不 明	100.0	100.0	100.0	100.0
いとこ	20.9	20.0	25.0	20.0
いとこ半	2.3	---	5.0	---
はとこ	---	---	---	---
はとこ半	4.7	---	10.0	---
またはとこ	---	---	---	---
遠い親戚	72.1	80.0	60.0	80.0

第12表

(ハ) 職業別全夫婦数に対する割合 (%)

血 縁 濃 度	農 業	非 農 業	不 明
総 数	12.4	9.5	8.7
い と こ	1.5	2.1	1.8
い と こ 半	0.3	0.2	0.2
は と こ	0.4	0.4	—
は と こ 半	0.2	0.2	0.4
またはとこ	0.2	0.2	—
遠い親戚	9.8	6.4	6.3

占める割合が比較的に高いことが目立っている。更に(ロ)表によって職業別の全夫婦数に対する血縁濃度率を見ると、全農林漁業者中に占める比率も、農林漁業者が高く12.4%を示し、非農林漁業者では9.5%に止っているが、いとこ婚では非農林漁業者が2.1%で農林漁業者の1.5%を上回っているが、統計的には有意性はない。従って問題は遠い親戚婚であるが、農林漁業者に高くこの差はやや有意性を持っている。

次にこれを夫側、妻側に分けて現在夫婦の血縁有無別に夫側妻側の祖先の年代別組合せをきめ細かく分析して見ると第13表の如くであるが、現在夫婦に血縁関係なきものの中、夫側にも、妻側にも、何れも血縁関係のあったものは27組で、総数の0.8%に当るが、これに反して現在夫婦の血縁関係組中、夫妻何れの側にも代々血縁関係のあったものは7組、総数の1.76%でやはり血縁組の方が高い。従って総計34組、0.88%は、代々血縁関係を持った夫婦が存在していることを知るのである。現在悪質遺伝病の出現率は一般に十万の出産に対し2前後と言われているが、優生保護法の対象症例としては凡そ30遺伝病があげられている。従って百分率にすれば0.06%になるが、以上の濃度婚者が平均3回の出産をしたとしても0.57%になり若し悪質劣性遺伝病があれば、斯る夫婦に続現することは想像に難くない。

第13表 夫妻の血縁別、先祖組合せ別、世代別に見た血縁関係

(1) 総 計

血 縁 関 係	妻 の 側								計	
	(1)(2)(3) 無無無	(1)(2)(3) 無有無	(1)(2)(3) 無有有	(1)(2)(3) 有有有	(1)(2)(3) 有無無	(1)(2)(3) 有無有	(1)(2)(3) 有有無	(1)(2)(3) 無無有		
夫	(1)(2)(3) 無無無	2,472 (64.31)	92 (2.39)	27 (0.70)	41 (1.07)	98 (2.55)	26 (0.68)	21 (0.55)	165 (4.29)	2,942 (76.53)
	(1)(2)(3) 無有無	88 (2.29)	16 (0.42)	8 (0.21)	3 (0.08)	13 (0.34)	5 (0.13)	5 (0.13)	10 (0.26)	148 (3.85)
	(1)(2)(3) 無有有	32 (0.83)	8 (0.21)	4 (0.10)	4 (0.10)	4 (0.10)	2 (0.05)	4 (0.10)	6 (0.16)	64 (1.66)
	(1)(2)(3) 有有有	41 (1.07)	7 (0.18)	7 (0.18)	34 (0.88)	4 (0.10)	3 (0.08)	11 (0.29)	3 (0.08)	110 (2.86)
の	(1)(2)(3) 有無無	123 (3.20)	20 (0.52)	6 (0.16)	10 (0.26)	40 (1.04)	5 (0.13)	11 (0.29)	17 (0.44)	232 (6.04)
	(1)(2)(3) 有無有	20 (0.52)	4 (0.10)	— (—)	5 (0.13)	7 (0.18)	4 (0.10)	3 (0.08)	8 (0.21)	51 (1.33)
側	(1)(2)(3) 有有無	25 (0.65)	6 (0.16)	5 (0.13)	11 (0.29)	14 (0.36)	1 (0.03)	19 (0.49)	5 (0.13)	86 (2.24)
	(1)(2)(3) 無無有	147 (3.82)	12 (0.31)	7 (0.18)	7 (0.18)	8 (0.21)	3 (0.08)	6 (0.16)	21 (0.55)	211 (5.49)
計	2,948 (76.69)	165 (4.29)	64 (1.66)	115 (2.99)	188 (4.89)	49 (1.27)	80 (2.08)	235 (6.11)	3,844 (100.00)	

注：(1) 父方祖父母，(2) 母方祖父母，(3) 父母，それぞれの血縁関係の有無を示す。

実数は夫婦組数。()内は%，現在夫婦の血縁関係不明者を含んでいるので総数は血縁組と無関係組の計と合わない。

第 13 表 (つづき)

(2) 現在夫婦血縁関係なし

血縁関係	妻			の			側			計
	(1)(2)(3) 無無無	(1)(2)(3) 無有無	(1)(2)(3) 無有有	(1)(2)(3) 有有有	(1)(2)(3) 有無無	(1)(2)(3) 有無有	(1)(2)(3) 有有無	(1)(2)(3) 無無有		
(1)(2)(3) 無無無	2,214 (65.64)	75 (2.22)	21 (0.62)	38 (1.13)	89 (2.64)	22 (0.65)	20 (0.59)	143 (4.24)	2,622 (77.70)	
(1)(2)(3) 無有無	78 (2.31)	11 (0.33)	4 (0.12)	2 (0.06)	10 (0.30)	5 (0.15)	4 (0.12)	7 (0.21)	121 (3.59)	
(1)(2)(3) 無有有	25 (0.74)	6 (0.18)	2 (0.06)	2 (0.06)	3 (0.09)	2 (0.06)	4 (0.12)	5 (0.15)	49 (1.45)	
(1)(2)(3) 有有有	40 (1.19)	7 (0.21)	5 (0.15)	27 (0.80)	4 (0.12)	2 (0.06)	8 (0.24)	3 (0.09)	96 (2.85)	
(1)(2)(3) 有無無	103 (3.20)	15 (0.44)	5 (0.15)	9 (0.27)	34 (1.01)	5 (0.15)	11 (0.33)	12 (0.36)	199 (5.90)	
(1)(2)(3) 有無有	18 (0.53)	2 (0.06)	— (—)	3 (0.09)	6 (0.18)	3 (0.09)	2 (0.06)	6 (0.18)	40 (1.19)	
(1)(2)(3) 有有無	23 (0.68)	4 (0.12)	5 (0.15)	7 (0.21)	13 (0.39)	1 (0.03)	14 (0.42)	5 (0.15)	72 (2.13)	
(1)(2)(3) 無無有	121 (3.59)	9 (0.27)	6 (0.18)	6 (0.18)	8 (0.24)	2 (0.06)	5 (0.15)	4 (0.60)	174 (5.16)	
計	2,627 (77.88)	129 (3.82)	48 (1.42)	94 (2.79)	167 (4.95)	42 (1.25)	68 (2.02)	198 (5.87)	3,373 (100.00)	

注：(1) 父方祖父母，(2) 母方祖父母，(3) 父母，それぞれの血縁関係の有無を示す。

(3) 現在夫婦血縁関係あり

血縁関係	妻			の			側			計
	(1)(2)(3) 無無無	(1)(2)(3) 無有無	(1)(2)(3) 無有有	(1)(2)(3) 有有有	(1)(2)(3) 有無無	(1)(2)(3) 有無有	(1)(2)(3) 有有無	(1)(2)(3) 無無有		
(1)(2)(3) 無無無	209 (52.64)	15 (3.78)	5 (1.26)	3 (0.76)	9 (2.27)	3 (0.76)	— (—)	20 (5.04)	264 (66.50)	
(1)(2)(3) 無有無	9 (2.27)	4 (1.01)	3 (0.76)	1 (0.25)	2 (0.50)	— (—)	1 (0.25)	3 (0.76)	23 (5.79)	
(1)(2)(3) 無有有	6 (1.51)	2 (0.50)	2 (0.50)	1 (0.25)	1 (0.25)	— (—)	— (—)	— (—)	12 (3.02)	
(1)(2)(3) 有有有	1 (0.25)	— (—)	2 (0.50)	7 (1.76)	— (—)	1 (0.25)	3 (0.76)	— (—)	14 (3.53)	
(1)(2)(3) 有無無	12 (3.02)	4 (1.01)	1 (0.25)	1 (0.25)	5 (1.26)	— (—)	— (—)	5 (1.26)	28 (7.05)	
(1)(2)(3) 有無有	2 (0.50)	2 (0.50)	— (—)	2 (0.50)	1 (0.25)	1 (0.25)	1 (0.25)	1 (0.25)	10 (2.52)	
(1)(2)(3) 有有無	2 (0.50)	— (—)	— (—)	3 (0.76)	1 (0.25)	— (—)	5 (1.26)	— (—)	11 (2.77)	
(1)(2)(3) 無無有	24 (6.05)	3 (0.76)	1 (0.76)	1 (0.25)	— (—)	1 (0.25)	1 (1.25)	4 (1.01)	35 (8.82)	
計	265 (66.75)	30 (7.56)	14 (3.53)	19 (4.79)	19 (4.79)	6 (1.51)	11 (2.77)	33 (8.31)	397 (100.00)	

注：(1) 父方祖父母，(2) 母方祖父母，(3) 父母，それぞれの血縁関係の有無を示す。

次に現在夫婦の血縁組中、夫の側の先祖に代々血縁関係を繰り返したものが14組で3.53%、妻側の先祖の代々血縁を繰り返したものは19組で4.79%で、これを現在夫婦無関係組のそれと比較すると夫側の代々の血縁組は96組2.85%、妻側の代々血縁組94組2.79%より上回っていることが分る。総計すると、夫側では2.86%、妻側では2.99%が先祖が代々血縁夫婦であったことになる。従って先祖に二つ以上血縁関係を有したものの合計は現在夫婦無関係組では422組12.5%で、現在夫婦関係組では69組17.4%である。現在夫婦の血縁関係の不明なものも入れての総計は502組13.1%となるが、これが先祖において血縁関係を多く持っている夫婦の割合といえよう。

祖父母の代までさかのぼって一応血縁関係の全くなかったという夫婦は2,471組64.3%で、あとは何等かの意味で血縁を持った夫婦である。

最後に参考までに代々血縁関係組の濃度についての若干の事例を紹介すれば第14表の如くである。(イ)(ロ)(ハ)表は現在夫婦も血縁関係あるもので、夫々7例、3例3例の表であるが、この7例の中2例は本人達も、いとこ、いとこ半の濃度婚であるが、その祖先も、何れも、いとこ、いとこ半、はとこといった濃密な血縁関係で、しかもこの夫婦達が、自然死流産をしている夫婦であることも興味深いものがある。また現在夫婦に血縁関係なくても、その先祖がいとこ婚であったものが(ニ)表によって1例見られているし、いとこ半、はとこ半までのものも1例ある。そこで斯る血縁関係の代々あるものと、全然ないものとは出産回数や結婚回数にどのような差異が見られるものかを参考として計算して見ると、第15表の如くになった。対象夫婦の中妊娠期間を過ぎたと思われる40歳以上の妻を取り、受胎調節の有無を検討して抽出したため、実数が限定されたが、それでも完全血縁組の平均妊娠回数は2.2回に止っているが、完全無関係組は平均妊娠回数は3.6回でやや多く、先祖に関係あっても本人達が無関係のものは平均4.1回、血縁関係の有無が混在するものも平均4.1回でこれが最も多く示された。また自然死流産の割合を夫婦百について見ると、完全血縁組は50%、先祖が全血縁組で本人達が無関係なものは45.5%、血縁関係が代によって混在するものは30.3%、完全無関係組は17%で、次第に血縁関係濃度の減少に応じて、この割合が下降していることは何か生物学的な内部結合反応の問題として興味ある示唆を与えているといえよう。

第15表 血縁関係と妊娠出産回数との関係

血 縁 関 係	夫婦組数	妊娠回数	自然死 流 産	人工妊娠 中 絶	出産回数	平均出産 回 数	平均妊娠 回 数
現在夫婦先祖が全て血縁関係のあるもの	4	9	2	—	7	1.75	2.25
40～44歳	3	6	2	—	4	1.33	2.00
45～49歳	1	3	—	—	3	3.00	3.00
現在夫婦を除き先祖が全て血縁関係のあるもの	11	45	5	2	38	3.45	4.09
40～44歳	8	34	5	2	27	3.38	4.25
45～49歳	3	11	—	—	11	3.67	3.67
現在夫婦・先祖の一部に血縁関係のあるもの	66	269	20	20	229	3.47	4.08
40～44歳	48	195	19	19	157	3.27	4.06
45～49歳	18	74	1	1	72	4.00	4.11
現在夫婦・先祖に血縁関係のないもの	341	1,221	58	79	1,084	3.18	3.58
40～44歳	234	799	45	66	688	2.94	3.41
45～49歳	107	422	13	13	396	3.70	3.94

10 む す び

本稿は、まえがきにも述べた如く、血族関係そのものを主として調査したものから集計研究したものでなく、他の調査に附随して行なったものであるため、本集計結果からは結論的なものを引き出すことは最初から無理である。しかし、斯る研究分析の一端の研究資料も現在までないということから、事実の一端を伺い知る参考研究としては、その稀少価値があるといつてよかろう。特に本稿で示唆された如く、血縁関係というものが、案外にも職業、特に産業別に見ると、大きな平行関係にあること、また近代産業に従事する人々でも依然として10%以上の血縁率を示していることや、3%内外に代々血族婚が見られ、しかも、夫妻双方の側の祖先の血縁率には大差ないことなども明らかとなったことなど、今後の人口資質対策の方向について、ある指針研究に役立つものがあつたことは事実である。特に今後の問題として、生物学的観点から注意をしなければならない関心事は、悪質遺伝病出現率の動向に関するもの及びこれらの血液濃度が妊娠出産に如何なる影響を与えるかということで、これも、無視し難い研究課題となる可能性がある。

Changing Frequency of Consanguineous Marriages through Three Generations: A Survey on Marriages in Factory Workers and Their Ancestors

NOBUO SHINOZAKI
SHIMAKO OGINO

The data used in this report were obtained from a demographic survey of male employees working at some large scale factories and their families. As a part of this survey we collected informations on consanguinity in marriage with regard to the married workers and their ancestors within two previous generations, that is, parents and grandparents of both husband's and wife's sides.

The number of married workers who gave full response to our questions was 3,844, so we obtained necessary informations with regard to 3,844 marriages in the workers' own generation and twice that number in the parental generation and four times that number in the grandparental generation.

Consanguineous marriages are found in a little more than 10 percent of total marriages of the workers. This percentage is exceeded by that of marriages of their parental generation, and the grandparental generation shows the highest proportion of consanguineous marriages. As to about three percent of married couples of workers out of those consanguineously married, it is found that marriages of all the parents and grandparents of both husband's and wife's sides are consanguineous. In the generations of parents and grandparents, there are some occupational differences in the proportion of consanguineous marriages. For instance, among couples whose husbands' occupations are agriculture and the like, a higher percentage of consanguineous marriages is noticed.